補助動詞化された後項動詞の意味分類に関する考察

石恩京*

－ 목차 －

Ⅰ. はじめに
Ⅱ. 复合动词の类型
Ⅲ. Ｖ－ｖ构造
Ⅳ. 连用修饰语について
Ⅴ. 补助动词化された後项动词の连用修饰用法と意味分类
Ⅵ. おわりに

|국문초록|

복합동사의 후항동사는 전항동사가 나타내는 동작·상태를 보다 구체적으로 설명하는 역할을 한다. 술어의 표현내용을 한정한다는 면에서 생각해보면, 복합동사의 후항동사는 부사와 같은 역할을 하고 있다고 인정된다. 이와 같은 전항동사에 대한 후항동사의 기능(연용수식의 기능)을 인정하고, 사전의 복합동사의 의미 기술에서 보이는 연용수식어는 어떠한 것이 있는가를 검토해 본다. 연용수식어에 관하여 생각하는 것은, 전항동사에 대한 후항동사의 기능, 즉 전항동사가 나타내는 동작·상태를 보다 구체적으로 설명하는 역할을 이해하기 위해서도 필요하다. 또한 후

* 立教大学 非常勤講師、日本語学

항동사의 의미를 분류하는데 있어서도 필요할 것으로 생각된다.

주제어: 복합동사, 후항동사, 의미분류

Ⅰ. はじめに

辞書における複合動詞の意味記述を見ると、その意味記述の中に連用修飾語[1]が含まれている場合がある。連用修飾語について考えることは、前項動詞に対する後項動詞の働きーすなわち、前項動詞の示す動作·状態をより詳しく説明する働きーを理解するためにも必要である。また、後項動詞の意味を分類する上でも必要なことである。

しかし、複合動詞に関する先行研究が数多く存在する中、後項動詞が前項動詞を修飾する用法（以下、「後項動詞の連用修飾用法」）について指摘している文献は、私見によればなさそうである。本稿では、辞書の意味記述に見られる連用修飾語を手がかりに、複合動詞の後項動詞をどのように意味分類できるかを考えてみたい。

1) 修飾語のうち用言（副詞の場合も含む）を修飾するもの。「非常に暑い」「楽しく遊ぶ」「思わず吹き出す」の「非常に」「楽しく」「思わず」の類。普通、補語·目的語などと呼ばれるものも連用修飾語の中に入れて考える。副詞的修飾語。→修飾語（文の成分の一。ある語句の概念を限定したり、意味をくわしくしたりする語。「白い花」「とても疲れた」の「白い」「とても」などの類。体言を修飾するものを連体修飾語、用言を修飾するものを連用修飾語という。）『大辞林　第三版』

Ⅱ．複合動詞の類型

複合動詞を、意味面つまり構成要素間の意味関係から分析する場合、研究者によって多少の相違点は見られるが、基本的に「動詞（連用形）＋動詞」の結合形態に限定して複合動詞を分類すると、実質的な意味･機能がどちらにあるかによって、次の四つの類型にまとめることができる。（前項動詞と後項動詞を「V」または「v」で示してあるのは、若林武史（1989）の分類[2)]における示し方である）

① 実質的意味である前項動詞＋質的意味である後項動詞
（V－V構造）
② 実質的意味である前項動詞＋非実質的意味である後項動詞
（V－v構造）
③ 非実質的意味である前項動詞＋実質的意味である後項動詞
（v－V構造）
④ 非実質的意味である前項動詞＋非実質的意味である後項動詞
（v－v構造）

本稿では、複合動詞の類型の中で、②「実質的意味である前項動詞＋非実質的意味である後項動詞」（以下、V－v構造）を考察の対象とする。

2）若林武史（1989）による複合動詞の分類
① 一類：V－V構造　握りつぶす
② 二類：V－v構造
ⅰ）アスペクト的（書きはじめる）ii）意志（ムード）的（使いきる）iii）接尾辞的なもの（叱りつける）
③ 三類：v－V構造　ⅰ）強調（押しだまる）ii）様態（打ちよせる）iii）様態（派生）（飛びちらす）
④ 四類：v－v構造　取りしまる

Ⅲ. Ｖ－ｖ構造

（1）録音を聞き返す。

（2）からだが弱り切っている。

V-v構造の複合動詞は、後項動詞が補助動詞化されている場合である。本来の意味は失われたものの、前項動詞をより詳しく説明する働きをしているのである。これは複合動詞の意味記述からも確認できるが、用例（1）（2）のそれぞれの複合動詞の意味を見ると次のようである。（用例（1）（2）と複合動詞の意味記述（1'）（2'）は『大辞林』によるものである）

（1′）聞き返す　：　一度聞いたことを繰り返して聞く。

（2′）弱り切る　：　すっかり衰える。ひどく衰弱する。弱り果てる。

意味記述の傍線部「繰り返して」「すっかり･ひどく」は、後項動詞「返す」「切る」の表す意味であり、前項動詞　「聞く」「弱る」の示す動作･状態をより詳しく説明する働きをしていることが分かる。また、「聞き返す」の「かえす」は　「反復」、「弱りきる」の「きる」は「程度の強調」を表す、という意味分類もできると考えられる。

このように、前項動詞に対する後項動詞の働き（前項動詞をより詳しく説明する働き）、つまり連用修飾の働きについて考えることは、補助動詞化された後項動詞の意味分類をすることに大いに関わってくると考えられるので、以上のような考察は必要であろう。

Ⅳ. 連用修飾語について

副詞は連用修飾の働きをする代表的な語であるが、寺村（1991）は、副詞も含めて連用修飾の働きをする語の形として次のようなものを挙げている。

① 名詞＋格助詞
② 時を表す名詞（＋格助詞）
③ 数量を表す名詞
④ 名詞的形容詞＋ニ
⑤ 形容詞連用形
⑥ 動詞テ形
⑦ 動詞連用形（「クリカエシ」「泣キ泣キ」）
⑧ 引用形式
⑨ 副詞
⑩ その他

辞書記述に見られる連用修飾語として②③⑧はないようであるが、以上の連用修飾の働きをする語の形を参考に以下のことについて検討する。

•辞書記述において、後項動詞はどのような語の形として表れるのか。
•そして連用修飾語として表れた語によってどのような意味分類ができるのか。

Ⅴ. 補助動詞化された後項動詞の連用修飾用法と意味分類

複合動詞における後項動詞は、前項動詞の示す動作･状態をより詳しく

説明する働きをすると指摘したが、述語を修飾するというところから考えると、副詞と同じ働きをすることが認められる。『大辞林』の意味記述を参考に、それぞれの複合動詞を辞書の意味記述を用いて変えてみると次のようである。

（1）a. 友と将来の夢を　語り**合う**。
　　b. 友と将来の夢を　**互いに**語る。
（2）a. 一晩で　読み**切る**。
　　b. 一晩で　**終わりまで / 全部**読む。
（3）a. 録音テープを　聞き**直す**。
　　b. 録音テープを　**もう一度**聞く。
（4）a. あたり一面を　焼き**尽くす**猛火。
　　b. あたり一面を　**すっかり / 残るものなく**焼く猛火。

用例（1）から（4）のa.に見られる後項動詞「合う」「切る」「直す」「尽くす」の表す意味は、（1）から（4）のb.のように、「互いに」「終わりまで / 全部」「もう一度」「すっかり / 残るものなく」という語で説明されています。これは、意味の上で、後項動詞は連用修飾語と対応していることを意味しており、前項動詞「語る」「読む」「聞く」「焼く」の示す動作･状態をより詳しく説明している。このような対応が見られる複合動詞は他にもたくさんあるが、「切る」を後項動詞とする複合動詞を取り上げて、それぞれの複合動詞において、辞書の意味記述に見られる連用修飾語にはどのようなものがあるかを見てみる。そして、連用修飾語によって後項動詞の意味をどのように分類すべきかを考えてみる。

＜表１＞『大辭林』による「―きる」複合動詞の辞書記述と用例

複合動詞	辞書記述	用例
言い切る	⑵ 言い終わる。最後まで言う	思うことを半分も言い切らないうちに時間になった。
売り切る	商品を全部売ってしまう。賣りつくす	在庫品を売り切る。
読み切る	⑴ 終わりまで読む。全部読む。 ⑵ 結末まですっかり見通す。	⑴ 一晩で読み切る。 ⑵ 先を読み切る。
言い切る	⑴ 自信や決意をもってはっきり言う。断言する。	絶対に間違いはないと言い切る。
押し切る	⑵ (障害を乗り越えて)最後までしとおす。困難に打ち勝ってする。	親の反対を押し切って上京する。
買い切る	⑴ 場所や乗り物の座席などの使用權を、全部買う。借り切る。 ⑵ 品物を全部買う。買い占める	⑴ 劇場を一日買い切る。 ⑵ 在庫品を一括買い切る。
貸し切る	⑴ 乗り物や場所·部屋などを、一定期間、特定の個人や団体に貸す。貸し切りにする。⇔借り切る ⑵ すっかり貸す。残らず貸す	⑴ バスを貸し切る。 ⑵ 家作は貸し切って、空き家はない。
借り切る	ある期間、特定の人が全部借りてしまう。⇔貸し切る	研修会でホテルを一週間借り切る。バス一台を借り切る。
困り切る	それ以上困りようがないほど困る。困り果てる。	一人っ子のわがままに困り切る。
澄み切る	一点の濁りもなく澄む。	澄み切った秋空。

辞書記述における後項動詞「切る」は傍線部のように説明されており、いずれも前項動詞の示す動作·状態をより詳しく説明していることが分かる。いずれの後項動詞「切る」も前項動詞に対する働きとしては同じであるが、辞書の意味記述を見ても分かるように、同じ意味で用いられているとは限らない。

＜表１＞は４つに区切られているが、上から順番に、次の＜表２＞の１から４までの意味とそれぞれ対応していることを表している。＜表１＞を参考に、後項動詞「きる」の意味分類をしてみると、次の＜表２＞のようになる。

＜表２＞ 補助動詞化された後項動詞「きる」の意味分類

後項動詞の意味分類	複合動詞
1. 動作·行為の完遂（終了）	言い切る、売り切る、読み切る
2. 動作·行為の完遂（決断·断行）	言い切る、押し切る
3. 動作·行為の及ぶ範囲（全体）	買い切る、貸し切る、借り切る
4. 状態の程度（極限）	困り切る、澄み切る

Ⅵ. おわりに

複合動詞の後項動詞は、前項動詞の示す動作·状態をより詳しく説明する働きをするが、述語の表現内容を限定するというところから考えると、副詞と同じような働きをすることが認められる。本稿では、このような前項動詞に対する後項動詞の働き（連用修飾の働き）を認めた上で、辞書における複合動詞の意味記述に見られる連用修飾語にはどのようなものがあるかを検討し、連用修飾語による後項動詞の意味分類を試みた。その結果、辞書記述に見られる連用修飾語は、後項動詞の表す意味であり、前項動詞の示す動作·状態をより詳しく説明する働きをしていることが分かる。また、連用修飾語によって、後項動詞の意味分類も可能であると考えられる。

複合動詞によっては連用修飾語がない場合もあるが、辞書記述を検討することは、後項動詞の意味分類において必要であることは間違いない。

|参考文献および参考事典|

寺村秀夫(1991)，『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版、p.267～268.
若林武史(1989)，「現代日本語の複合動詞の形態と意味―Ｖ－Ｖ構造の複合動詞

の意味 構造―」,『京都教育大學國文會誌』, 23、p.30.
『大辭林　第３版』(2006), 三省堂.

|要旨|

石恩京

複合動詞における後項動詞は、前項動詞の示す動作･状態をより詳しく説明する働きをする。述語の表現内容を限定することから考えると、複合動詞の後項動詞は、副詞と同じ働きをすることが認められる。このような前項動詞に対する後項動詞の働き（連用修飾の働き）を認めた上で、辞書における複合動詞の意味記述に見られる連用修飾語にはどのようなものがあるかを検討してみる。連用修飾語について考えることは、前項動詞に対する後項動詞の働きーすなわち、前項動詞の示す動作･状態をより詳しく説明する働きーを理解するためにも必要である。また、後項動詞の意味を分類する上でも必要であると考えられる。

キーワード：複合動詞　後項動詞　意味分類

이 논문은 2013년 1월 30일 투고되어 2013년 2월 15일 심사 완료하였으며, 2013년 2월 20일 게재 확정되었음.